



## コラムこころの森

連載第19回

### 墓じまい、父の終活

藤南佳代 Kayo Tonan

www.hokuonow.com

故郷の父から、墓地が売れたという連絡が入った。

30年近くも前、父がその分譲墓地を買ったときのことを覚えている。三男の父は、死後、本家の墓には入ることができないらしく、自分の代からの墓地を用意した。神社のすぐ近くの高台にあるその墓地は、とても見晴らしがよく、そこから見渡せる街の景色に父は満足していた。

計算してみると、ちょうどわたしが大学を卒業し、地元に戻って就職した年になる。当時の父は、自分がそうしてきたように、自分の子孫が自分の墓参りをし、墓を守っていくことを当たり前のこととして、少しも疑っていなかったのだろう。近くを通る度に、「お父さんは、死んだらここに入るんだ。眺めがいいだろう。」と機嫌よく言っていた。

それから数年後にわたしは日本を離れ、弟は、都会で就職し結婚した。父は、弟が帰省すると必ず、定年後に故郷に戻ってくる気はあるかと、ずっと先のことを聞いていた。

そんな父が、数年前から、家はまだ自分たちが住むから処分も出来ないが、墓地は売っておこうと思っていると言いだした。母は墓地の売却に反対していた。父が死んだら、世間の人と同じように、普通に墓参りがしたいと。

じゃあ、母も死んだらどうなるのか、こんなところに両親の墓があっても子供の負担になるだけだろうと父に言われると、そんなところまでは考えられない、自分が死んだらなんでも好きにすればいい、自分が先かもしれないと言って、毎回、その話は終わりになっていた。

30年前から終活していた父と、74歳になっても終活など考えたくない母の、そのまったく同じ平行線のままの会話が、おそらく数え切れないぐらい繰り返された末に、この度、父が、強行して更地の墓地の買い手を見つけたようだ。

父が墓地を売ったことを友人への近況メールで知らせたところ、今、日本では、「墓をどうするか」が大きな時代の課題となっていると教えてもらった。

「墓をどうする？」という問題に直面した高齢者世代がまず考えるのが、子供の負担になりたくないという思いだが、子供世代は親世代の思いやりに守られていると同時に、この「思いやり」が必ずしも子供のためになるとは限らないのではないかと友人は言う。

「墓じまい」という言葉も初めて知った。父は、更地の土地を手放しただけなので、その言葉に該当しないのかもしれないが。わたしも、父が自分のための墓地を買った時の年齢になった。

What will we do with the graves?

“Haka-jimai” as a new issue in Japan

Kayo Tonan, Jungian Psychoanalyst

A Japanese grave is usually a family grave (*haka*) consisting of a stone monument with a place for flowers and so on. In the past, descendants took care of their ancestor's graves for generations. But our modern life style makes keeping this tradition more and more difficult. “Haka-jimai” is a new expression which means to “finish” or abandon the grave yard of the ancestors. What do/will you want to do with your parents grave and where do you want to be buried after your death?

こころの森

www.kokoronomori.se

- カウンセリング・心理療法 Psychotherapy
- カップルセラピー Couples Therapy, Marriage Counseling
- 精神分析・夢分析 Psychoanalysis, Dream Analysis
- コーチング・メンタルマネージメント Coaching

藤南佳代 (精神分析家・臨床心理士) Kayo Tonan

お茶の水女子大学大学院博士課程修了 Licensed Psychotherapist in Japan  
スイス ユング研究所にて分析家資格取得 Diplome Psychoanalyst in  
Switzerland

スウェーデン国家資格取得 Legitimerad Psykoaterapeut in Sweden

RÅDMANGATAN 37, STOCKHOLM

Tel. 076 328 2500 Email: info@kokoronomori.se